

第5回松本市基幹博物館施設構想策定委員会 会議要旨

1 日 時

平成29年3月3日（金）午後2時30分～午後4時10分

2 場 所

松本市立博物館2階講堂

3 参加委員

赤羽勝委員、大宮康彦委員、金山喜昭委員、菊池健策委員、倉澤聡委員、笹本正治委員、南雲多栄子委員、益山代利子委員、武者忠彦委員（50音順）（欠席委員：香山壽夫委員）

4 事務局

博物館長、博物館事業担当課長、都市政策課長ほか

5 次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 議題等

ア 前回会議集約と補足説明

イ 施設構想最終報告案の検討

ウ その他

(4) 閉会

6 会議事項（要旨）

（事務局側の回答要旨は、「→」の後に掲載、委員の発言を受け別の委員が回答したのものについては「⇒」の後に掲載している。）

(1) 議題アについて

質疑等なし

(2) 議題イについて

ア 報告書の体裁、標記等に関する意見

・報告書中の整備イメージ図（外観・内観）の掲載について

⇒整備イメージ図は、設計に影響を与えかねないので削除する。（全委員）

・報告書の文章表現について、文章的に、日本語としてきちんとした表現を保つように直していただきたい。（委員）

・第1章3の見出しが「ふりかえり」となっているが、不要ではないか。（委

員)

- ・資料編の頁割りなど、全体的な読みやすさに配慮していただきたい。(複数委員)

イ 報告書各論の記述についての意見

- ・まちづくりの観点からの記述は大事な視点だが、限定列举は要件限定につながりかねないので、見直すべきではないか。(委員)
- ・建築デザインは松本らしさを表し、と最初に規定すると逆に今あるイメージに固定化されてしまうのではないかと心配。結果として、次の時代に松本らしさとして残ればいいのではないか。(委員)
- ・なんのための展示かがわかるようにしてほしい。これからの展示は「なぜ？」に興味をもつ展示が必要。結果に対して原因を探る力が、松本学やキャリア形成に大事だと思う。(複数委員)
- ・自分で原因を探り、課題解決の能力を養うことが、自立型の人間形成につながる事となる。ひとつの展示でも、貢献できる可能性がある。博物館でそういうことができなければ、松本の博物館の大きな挑戦になるのではないか。(委員)
- ・展示は全部がわかる必要はない。疑問を持たせる展示は非常に大事。その疑問に、学習支援機能に記載のレファレンス機能を連携・充実させてきちんと対応することが大事ではないか。(委員)
- ・36頁の図など、委員会の総意として決めたものではないものもある。事務局の案であることがわかるようにしていただきたい。(委員)

ウ 報告書の全般に係る意見

- ・施設の具体的な方針は、基本的には基本計画がベースにあって具体的にしていこうと思うが、この報告書を見ると、うまく整合していない。なぜ、この博物館に設けるのか、という基本的な考え方・留意点の説明が不足している。委員会での議論を反映したものとは言い難い。なにより、基幹博物館は、市民のための施設で、観光のためではないという議論がされてきた。そういうことが、この報告書の中にはメッセージとして入っていない。(複数委員)
 - ・博物館は誰のためにあるのか、松本市の博物館はどうあるべきかについてなされた議論を、報告書に盛り込んでほしい。(委員)
- 全体的なものやソフト面にまで踏み込みきれなかった部分がある。ふれられる部分は見直し、整理したい。
- ・あらためて、基本計画と施設構想との関連性、位置付けをきちんと示すべき。構想は、すでになされた議論を踏まえた上で検討されたという点。そして本委員会の役割についても明記すること。(委員)

エ 委員長集約

委員の指摘を反映し、最終報告書(案)を事務局修正のこと。その上で委員長の責任において内容確認することで、最終報告書の成案としたい。

⇒了(全委員)